

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光地等クリーンアップ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本村に数多く点在する史跡や文化財を地域資源として活用していくため、村内の各種イベントで使用する会場や観光施設、観光ルート等と併せて草刈作業や花壇等の環境整備を行いながら花木の植栽など美化活動を強化する。さらに島全体を観光地として環境整備を行い緑化活動を推進する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	48,374	-	32,711	35,000	35,000
		(b) 予算現額	47,769	-	32,711	35,000	29,600
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 605	-	0	0	▲ 5,400
		(d) 繰越額	-	30,758	-	-	-
	A. 計 (b+d)		47,769	30,758	32,711	35,000	29,600
	B. 執行済額		17,012	22,487	24,426	26,719	28,730
	うち交付金充当額		13,609	17,990	19,540	21,375	22,983
	次年度繰越額		30,758	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		35.6%	73.1%	74.7%	76.3%	97.1%
予算の状況の説明		・活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光ルート等の雑草の除去及び花木の植栽	目 標	(15カ所)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	15カ所	実施	実施	実施	
	植栽後の定期的な肥培管理の実施	目 標	(4カ所)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	4カ所	実施	実施	実施	
達成状況説明	・観光ルート等の雑草の除去については現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
	美化緑化箇所:15箇所 (まつり会場:1箇所、フットパスコース:1箇所、集落内外:5箇所、フラワーロード:4箇所、他観光施設等:4箇所)	目 標	(15カ所)	(15カ所)	(15カ所)	(15カ所)	(15カ所)
		実 績	15カ所	15カ所	15カ所	15カ所	
	進捗状況説明	・観光ルート等(美化緑化箇所:15カ所)の雑草の除去については現場の状況に応じた草刈り作業を実施するとともに、花木の植栽や植栽後の定期的な肥培管理についても、散水・草取り作業・追肥等を計画的に実施することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・夏場は雑草の成長が早い、毎日の現場確認を欠かすことなく行い、適切な除草作業の実施に努める。 ・花木の成長促進を図るために、植栽後の散水や追肥、除草等の肥培管理を適宜実施する。 ・夏場の除草作業については、草刈機作業員及び草刈り作業員の熱中症予防のために水分及び塩分の適宜摂取を心がけるような暑さ対策を講じる必要がある。 ・観光ルート等の美化緑化作業を円滑に推進するためには、11名の臨時職員採用は必要である。	・植栽した花木の肥培管理はもとより、植栽した花壇等に雑草が繁茂し、景観保全に支障をきたさないよう草取り等の雑草対策を適宜実施する。特に夏場は雑草の生長が早い、作業員の確保による適期の除草作業が可能となることで、本村を訪れる観光客の受入環境整備の強化につながる。
今後の取り組み方針		
・美化緑化箇所の継続した管理保全を図るとともに、適切な肥培管理の実施に努める。 ・草刈機作業員及び草刈り作業員の臨時職員採用については、効率よく除草作業が実施されていることから、今後も継続した取り組みを行う方針である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>28,730</td><td>28,730</td><td>22,983</td><td>5,747</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	28,730	28,730	22,983	5,747	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
28,730	28,730	22,983	5,747	0										
伊是名村 交付対象事業費 28,730千円	共済費 2,160千円	〔 臨時職員社会保険料 11名 〕												
	賃金 21,005千円	〔 臨時職員賃金 11名 〕												
	需用費 1,901千円	〔 消耗品及び燃料費 〕												
	役務費 247千円	〔 通信運搬費 〕												
	使用料及び賃借料 470千円	〔 重機等使用料 〕												
	原材料費 2,947千円	〔 花の種苗代、肥料代等 〕												
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、臨時職員は募集して雇用、需用費・役務費・使用料・原材料費は環境美化に要する費用であり支払いについても適切に実施され、妥当である。 ○予算規模については、補正で減額し、不用額抑止に務め、ほぼ見込みどおり執行できた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	いげな88トライアスロン大会支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	いげな88トライアスロン大会については大会選手・関係者をあわせて1,000名余りが来島し大会を盛り上げているが受入体制の強化、さらなるイメージアップをめざして通年をととして安定的な観光客の促進を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000		7,000		
		(b) 予算現額	5,000		7,000		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,000		0		
		(d) 繰越額	—		—		
		A. 計 (b+d)	5,000		7,000		
	B. 執行済額		5,000		7,000		
	うち交付金充当額		4,000		5,600		
	次年度繰越額		0		0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%		100.0%		
予算の状況の説明		・活動目標を計画どおり達成でき、予算執行も適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	いげな88トライアスロン大会の支援	目 標	(大会の支援)	()	(大会の支援)	()	
		実 績	大会の支援		大会の支援		
達成状況説明	スイム2キロ・バイク66キロ・ラン20キロのミドルスタンダードコースとして、全国各地(外国人含め)より600名余りの参加申込があり、当日は555名の選手が参加した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	トライアスロン参加選手:600名 ボランティア、関係者及び観戦者:400名	目 標	()	(1,000名)	()	(1,000名)	()
		実 績		905名		860名	
	進捗状況説明	・参加許可通知書送付後と大会当日までのキャンセル者 83名 ・第28回いげな88トライアスロン大会 当日参加者数 個人種目 486名 リレー種目 69名 計 555名 村外スタッフ 83名 船舶旅客集計表を参考に観戦者数 222名 合計 約860名(大会来場者数) ・村内ボランティアスタッフ 約535名(附則参考) トライアスロン参加予定者83名のキャンセルと、その同伴者が来島しなかったことが、目標を達成できなかった主な要因となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・参加許可通知書送付後から大会当日までのキャンセル者が83名でしており、併せて同伴者(応援者)も減ったことで目標を下回ったと考えられる。 ・安心、安全な大会にすることが参加者のリピーターにも繋がると考えているので、第一に安全性を確保する。	・キャンセル者を見込んだ参加許可通知書の送付数を設定し、目標数を目指す。 ・安全性を強化するうえで、関係者と運営スタッフ間での連携が必要不可欠と考える。また、危険箇所へポイントごとに安全対策の強化が必要。 ・レース後の交流、レース以外での付加的な要素で、参加者が楽しめるような大会にし、リピーター確保に繋げる。
今後の取り組み方針		
・より多くの参加者を募ると同時に本村受け入れ体制を強化することと、全選手が安心・安全でよりよい大会が行えるよう危険箇所への安全対策強化と、運営スタッフの増員が必要なことから、今後大会運営に関してレースディレクターや村内・村外スタッフ等と更なる連携を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,000</td><td>7,000</td><td>5,600</td><td>1,400</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊是名村 交付金対象事業費 7,000千円 補助金 7,000千円 いぜな88トライアスロン大会実行委員会 7,000千円 運営費補助 ふれあいパー ティー出演料、 音響・照明、 広告料、 備品購入費、 安全強化備品					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,000	7,000	5,600	1,400	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,000	7,000	5,600	1,400	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については見積書・過去資料等を勘案して選定し妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容に見合っており適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	「尚円王(金丸)生誕の村」整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-7		
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村は、第一尚氏王統の元祖及び第二尚氏王統の始祖尚円王生誕の地であり、数々の王家ゆかりの史跡・文化遺産が多く残されている。平成27年度に尚円王生誕600年を迎えるため、尚円王に関する史跡等の整備・復元や「いげな尚円王まつり」等の関連行事を開催し、本村から琉球の歴史及びいげな島の魅力を県内外へ発信することで更なる誘客による観光振興を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,000	42,973	76,886	80,000	
		(b) 予算現額	14,000	56,685	95,571	80,491	
		(c) 増減額 (b-a)	0	13,712	18,685	491	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	14,000	56,685	95,571	80,491	
	B. 執行済額		13,629	39,348	76,354	73,075	
		うち交付金充当額	10,903	31,478	61,082	58,459	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	97.4%	69.4%	79.9%	90.8%	
予算の状況の説明	当初、村まつりと尚円王生誕600年祭を別々に開催する予定であったが、尚円王生誕600年祭と同時開催するため1-②いげな尚円王まつり支援事業が廃止となり、その事業費6,000千円を増額補正したが、工事費での入れ残、補助金では当初より実績が下回ったことなどにより、最終的にその分を減額したことで、当初から491千円の増となっている。不用額については、対象外経費が生じたものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	史劇「尚円王～松金がゆく～」や史曲「尚円」の取り組み	目 標	(基本構想策定)	(実施設計・公園整備)	(史劇の取組み)	(史劇・史曲取組み)	
		実 績	基本構想策定	実施設計	史劇の取組み	未実施	
	尚円王通水節公園整備(トイレ)	目 標	()	()	()	(公園整備(トイレ))	
		実 績				公園整備(トイレ)	
	観光ガイド等養成講座の実施	目 標	()	()	(ガイド養成講座)	(ガイド養成講座)	
		実 績			ガイド養成講座	ガイド養成講座	
	伊是名村PR活動	目 標	()	()	(PR活動)	(PR活動)	
		実 績			PR活動	PR活動・生誕祭映像配信	
	尚円王生誕600年記念・いげな尚円王まつりの開催	目 標	()	()	()	(尚円王まつり開催)	
		実 績				尚円王まつり開催	
達成状況説明	史劇や史曲については、関係者・団体との調整がつかなかったため、実施しなかった。史曲「尚円」については、平成28年度実施することで作曲家と調整を進めている。観光ガイド等養成講座では、前年度に引き続いてガイドコース考案に取組み、集落内コースとイノー体験コースの2コースを追加することができた。その成果としてモニターツアーを実施した。また、尚円王ゆかりの史跡「尚円王通水節公園」に屋外トイレを設置したことで、施設の利便性向上につながった。観光PR活動として平成27年7月に新宿エイサーまつり(東京)に参加、平成28年2月に沖縄タイムスビルにて観光・物産・芸能フェア等を開催し、伊是名村のPRを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	観光ガイド、インストラクター等養成講座実施により観光人材を育成する(5人)。	目 標	()	()	()	(観光人材育成(5人))	()
		実 績				観光人材育成(5人)	
	【参考指標】 「-尚円王生誕600年記念-いげな尚円王まつり」来場者数(期間中の入域数)	目 標	(1,000人)	(1,000人)	(1,000人)	(2,000人)	()
		実 績		1,261人	1,417人	2,814人	
進捗状況説明	平成27年度は尚円王生誕600年祭を実施した。尚円王まつりについては、尚円王生誕600年祭実行委員会が中心となって生誕600年を村内外にPRした。また、「尚円王から学ぶ、次世代のリーダーに必要なこと」～自らの道を切り拓くために必要なこと～と題してシンポジウムも開催した。観光ガイド講座においては、年間を通して取り組んだ結果、各コース5人のガイドを養成。その成果を島外からの観光客を対象にしたモニターツアーを実施した。年間通して尚円王生誕600年祭をPRしたことで、年間入域客数も35,000人を上回り、観光客増加につながっている。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	尚円王生誕600年祭をPRしながら各種事業を実施してきた。その甲斐あって年間の入域客数が観光振興計画におけるステップアップ・飛躍期(H24～H28)35,000人を1年前倒しで達成することができた。平成28年度も継続して観光入域増加するかについては、次年度が重要となる。村民が主体的・継続的に取り組める方法について関係団体と検討していく必要がある。 観光ガイドについては、村内での広がり期待したが思うようにいかず、興味を持って参加しても次回から参加しない状況が続いている。継続的に講座に参加できる工夫が課題となっている。また、観光ガイドコースを3コース考案したが、それをどう発信すればよいか課題となっている。 史劇や史曲については、関係者・団体との調整がつかなかったため実施できなかった。史曲については、作曲家と次年度実施に向けた調整を行った。	この事業をととして各種団体の取り組みについて関係者が共有することができた。PR活動等については、関係団体が連携して取り組むことで効率的なPRが可能となる。 観光ガイドについても、より多くの村民が関わることで、地元の良さを再発見する機会となり、より多くの来訪者を満足させることが可能となる。受講者の中から、ガイドをまとめる世話役となる人材を輩出することで、村民ガイドの運営・情報発信を継続して担うことが可能となる。 また、関係者と調整がつかなかった史曲については、H28年度実施することで、引き続き伊是名＝尚円王をPRすることが可能となる。
今後の取り組み方針		
尚円王生誕600年祭関連事業で実施できなかった史曲「尚円」について、平成28年度に実施に向け作曲家と調整している。史曲「尚円」の開催については、生誕600年を冠につけて実施しないものの、引き続き伊是名＝尚円王をPRする。また、尚円王ゆかりの史跡等の整備を次年度より進めていく。 観光ガイドについては、3年計画の最終年となるため、村民ガイドの必要性・楽しさ等を多くの村民に知ってもらう機会を創出し、その中から一人でも多くガイド候補者が出るよう、取り組む。また、ガイドを実施するにあたり課題となっている運営・情報発信について一つ一つクリアしながら、併せて観光ガイド組織づくりに取り組んでいく。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		77,307	73,075	4,232
		交付金充当額	市町村負担金	
		58,459	14,616	
伊是名村 73,075千円 委託料 12,398千円 株式会社 国建 972千円 尚円王通水節公園屋外便所 建築工事監理業務 株式会社 ルーツ 5,670千円 伊是名島観光「コーディネーター」 育成事業 株式会社 シネマ沖縄 5,756千円 尚円王生誕600年祭関連イベント 配信映像制作業務 工事請負費 20,823千円 株式会社 伊是名建設 20,823千円 尚円王通水節公園屋外便所 建築工事 補助金 39,854千円 尚円王生誕600年祭 実行委員会 39,854千円 尚円王生誕600年祭、観光物産展 開催(2回)、その他PR活動 実行委員会補助(交付対象外経費) 4,232千円				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○工事監理業務・観光ガイド業務・映像配信業務については、これまでの実績等を勘案して随意契約。建築工事については、入札を行っており概ね妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○実行委員会への補助については、実績により補助額が予算額を下回ったことで減額が生じた。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者である実行委員会への補助金については村が総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○実績により対象経費と対象外経費とに区別されているかを精査した上で補助額を決定しており、妥当と考える。

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	伊是名モータースポーツ支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	場外離着陸場を活用した新たなイベント事業として、モータースポーツ大会を誘致し、選手をはじめそのサポーターや観光客の誘致を促進するため、モータースポーツ大会開催を支援する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,317	17,942			
		(b) 予算現額	15,044	11,324			
		(c) 増減額 (b-a)	7,727	▲ 6,618			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	15,044	11,324			
	B. 執行済額		12,404	11,324			
	うち交付金充当額		9,922	9,059			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		82.5%	100.0%			
予算の状況の説明		事業の執行状況及び予算の執行状況をしっかりとチェックし分析することで12月までに事業費の概算額を把握することができたため、年度途中で6,618千円を減額し予算調整を行った結果100%執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況			達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	ドラッグレース大会の開催支援	目 標	(開催支援)	(開催支援)	()	()	
		実 績	開催支援	開催支援			
	スーパードリフト大会の開催支援	目 標	(開催支援)	(開催支援)	()	()	
		実 績	開催支援	開催支援			
	エキサイティング・ジムカーナ大会の開催支援	目 標	(開催支援)	(開催支援)	()	()	
		実 績	開催支援	開催支援			
	達成状況説明	ドラッグレース大会、スーパードリフト大会及びエキサイティング・ジムカーナ大会をそれぞれ計画どおり開催し、大会関係者の船賃及びレース車の航送費等について助成を行う等、開催支援を行った。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
ドラッグレース大会来場者数		目 標	()	(300)	(200)	()	()
		実 績		684	150		
スーパードリフト大会来場者数		目 標	()	(300)	(400)	()	()
		実 績		614	640		
エキサイティング・ジムカーナ大会来場者数		目 標	()	()	(100)	()	()
		実 績			100		
進捗状況説明		ドラッグレース大会については、2回開催の内、第1回大会がレース当日に雨天となり中止となったため、目標を達成することができなかったが、ドリフト大会及びジムカーナ大会については計画どおり開催することができたこと、島外からの来場者の利便性を図るため船舶の運航日程を変更して対応したこと及び大会の宣伝をマスコミを介して積極的に行ったことにより目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・島外からより多くの観戦者を受け入れるため、船舶の運航日程を変更し対応しているが、レースの開催時期によって観戦者数にムラがあり、安定した数を確保できていない状況である。	・島外からの観戦者を増やすための策を、各協会側と協議し講じて行くとともに、前年度同様、マスコミ等を活用した宣伝などを積極的に行う。
今後の取り組み方針		
県内での集客の多いスーパー等でのポスターの掲示やマスコミを活用した宣伝などを積極的に行うなど誘客活動を広く展開していく。また、モータースポーツの楽しさ、魅力を体感してもらうようデモンストレーションも検討していきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
11,324	11,324	9,059	2,265	0

伊是名村
11,324千円

共済費
187千円

→ 臨時職員(1人) 187千円

賞金
1,534千円

→ 臨時職員 1,310千円
大会準備雇用者(8人) 224千円

需用費
410千円

→ 消耗品費(のぼり、横断幕、消耗品) 370千円
燃料費 40千円

役務費
8,464千円

→ 通信運搬費(車輛航送費等) 6,757千円
広告料(ラジオCM) 1,707千円

使用料及び賃借料
608千円

→ 使用料(フォークリフト、マイクロバス、簡易トイレ) 608千円

原材料費
121千円

→ トンブロック 121千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○のぼり、横断幕の作成については、見積により選定しており、妥当であったと考える。 ○執行率100%であり適正な規模であった。 — ○事業目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	いいな運天港いちやり場まつり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	伊是名村・伊平屋村・今帰仁村の三村交流事業である「いいな運天港いちやり場まつり」を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	800	1,100			
		(b) 予算現額	1,100	1,100			
		(c) 増減額 (b-a)	300	0			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	1,100	1,100			
	B. 執行済額		1,093	1,100			
	うち交付金充当額		874	880			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		99.4%	100.0%			
予算の状況の説明		・活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	目 標	(実施)	(実施)	()	()		
	実 績	実施	実施				
達成状況説明	・活動目標を達成するために、「いいな運天港いちやり場まつり」の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	目 標	()	(実施)	(実施)	()	()	
	実 績		実施	実施			
進捗状況説明	・「いいな運天港いちやり場まつり」を実施することにより、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) ・離島及び沖縄本島の三村広域連携事業であるため、定期的な会議の開催等により、意見交換と情報の共有を図る必要がある。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) ・運天港という立地を生かし会場イベントの計画も検討していきたい。 ・広告宣伝費用を増額し、まつりのPRを図ることにより、来場者数の更なる増加に繋げたい。
	今後の取り組み方針 伊平屋・伊是名・今帰仁三村の広域連携事業として、特産品やイベント内容の更なる充実を図るとともに、三村の魅力を最大限に発信する取り組みを強化する。	

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		1,100	880	

伊是名村

交付対象
事業費

1,100千円

負担金補助

1,100千円

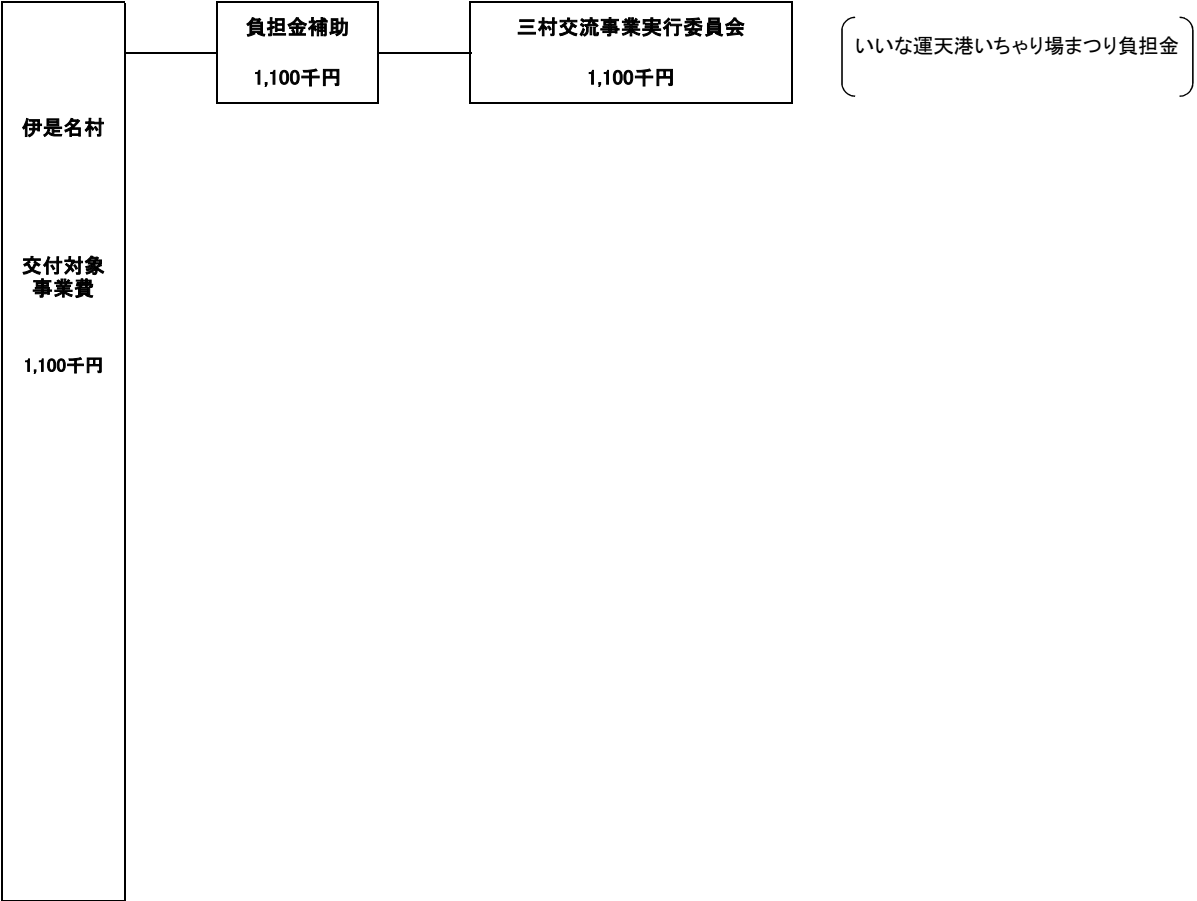
三村交流事業実行委員会

1,100千円

いいな運天港いちやり場まつり負担金

資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は三村交流事業実行委員会(事務局・今帰仁村)への負担金であり、適切である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても事業内容に見合った規模を負担金として支出しており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
1,100	1,100	880	220	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は三村交流事業実行委員会(事務局・今帰仁村)への負担金であり、適切である。 ○予算規模についても事業内容に見合った規模を負担金として支出しており、適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-7	
担当部署名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり	
事業内容	本村の魅力ある自然や文化・景観等を保全・活用による人と自然が共生するむらづくりを推進し、地域と一体となった魅力的な景観形成を推進するため、個人が実施する外観形成に有効な赤瓦屋根の新設または葺き替え、サンゴ石垣による敷地囲い等に要する経費を支援する。また、地域での景観形成活動を行う団体にも活動費の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,400	5,750			
		(b)予算現額	4,400	1,000			
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 4,750			
		(d)繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	4,400	1,000			
	B. 執行済額		400	1,000			
	うち交付金充当額		320	800			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		9.1%	100.0%			
予算の状況の説明		当初、赤瓦助成・石垣助成を予定していたが申請が無かったことで12月補正で予算4,750千円を減額した。景観形成団体への支援については、定額助成した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・景観形成取り組みへの支援	目 標	(赤瓦助成1件 団体助成2件)	(赤瓦助成1件 石垣助成1件 団体助成5団体)	()	()	
		実 績	団体助成2件	団体助成5団体			
達成状況説明	年度当初から赤瓦助成や石垣助成について対象地区世帯へパンフレットを配布したが、該当者がいなかったため事業費減額を行った。団体助成については、昨年度の2団体から5団体へ拡充して実施した結果、景観形成に対する住民意識向上につながり、各地域で空きスペースを使った景観作物が植えられるようになった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	団体助成→5団体	目 標	()	(団体助成2団体)	(団体助成5団体)	()	()
		実 績		団体助成2団体	団体助成5団体		
	進捗状況説明	団体助成については、5団体へ拡充して実施したことで、各団体とも地域住民が主体となって景観形成に取り組むことで景観保全につながった。また、集落内の空きスペースを利用して景観作物を植えるなど、景観意識の向上につながった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	赤瓦助成について、問い合わせは4件あった。しかしながら、業者へ見積り依頼したところ、屋根部分だけで700～800万円ほどかかるということで、申請を断念している。本助成は、赤瓦だけを葺きかえることを想定して事業を実施しているものの、長年風雨にさらされた赤瓦屋根の内部は、木部が屋根の重さや雨漏り等で激しく傷んでおり、赤瓦とそれを支える骨組みを改修しなければならない。 失われつつある赤瓦古民家を赤瓦助成によって効果的に保全するにはどうすればよいか課題となっている。 現行では赤瓦葺き替え経費の90%以内、400万円を上限に助成する計画であるが、助成金額の増加を含めて制度の運用について検討が必要。	現行400万円の上限について、屋根部全体の改修の場合、瓦葺き替えと木部の工事も含めた助成にすることで、実施希望が出てくるものと思われる。 景観重点地区の景観を保全し、村内の先駆的な取組みにより伊是名らしい風景を観光客に提供するだけでなく、後世にも残すことにもつながる。 団体助成については、本年度同様に5団体へ助成し、景観形成に取り組む。

今後の取り組み方針
赤瓦助成について、助成対象を赤瓦葺き替え費用だけでなく屋根の骨組みまでを対象に助成額を引き上げることで、事業実施が可能となる。また、現在の瓦葺き替え作業のほとんどが島外専門業者の施工となっているため、作業にあたっては地元の人材を活用し技術を習得させることで、今後の事業実施では地元人材の活用・事業費の抑制につながるものと考えている。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,000</td><td>1,000</td><td>800</td><td>200</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,000	1,000	800	200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,000	1,000	800	200	0										
<pre> graph LR A[伊是名村 1,000千円] --> B[補助金 1,000千円] B --> C[景観形成団体 5団体 1,000千円] C --- D["伊是名集落 200千円 仲田集落 200千円 諸見集落 200千円 内花集落 200千円"] </pre>														

資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要綱に基づき決定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○未実施となった助成は補正で減額し、不用額抑止に務め妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成金交付要綱に基づき集落の活動費用の一部を定額助成しており、集落の負担軽減が目的であるため助成額は妥当。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績報告に基づき書類等検査し、経費については対象費用に限定されている。

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	観光情報発信事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光振興を図ることを目的に、お土産袋、観光カレンダー等を制作し観光情報発信の推進を図り、受入れ体制を強化する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,800	1,800			
		(b) 予算現額	1,544	1,545			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 256	▲ 255			
		(d) 繰越額	—	—			
	A. 計 (b+d)		1,544	1,545			
	B. 執行済額		1,544	1,545			
	うち交付金充当額		1,235	1,235			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・お土産袋制作 ・観光カレンダー制作	目 標	(制作)	(制作)	()	()	
		実 績	制作済	制作済			
達成状況説明	観光振興を図ることを目的に、お土産袋及び観光カレンダーを制作した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	・お土産袋制作・配布(配布率100%) ・観光カレンダー制作・配布(配布率100%)	目 標	(100%)	(100%)	()	()	()
		実 績	100%	100%			
	進捗状況説明	観光振興を図ることを目的に、お土産袋5000部及び観光カレンダー1000部を制作し、本村の玄関口である仲田港や主要な公共施設等の窓口に設置し、観光客等へ配布することにより配布率100%を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	村の観光振興を図るために観光カレンダー、お土産袋制作を行った。 村に訪れた観光客にだけでなく、島外のイベント等でも配布したが、さらなる周知を図るためにも島外への配布、村の主要施設等にも配布が必要となる。	島外におけるイベント等で配布することにより、観光情報のさらなる発信に繋がり、観光の振興に寄与する。
今後の取り組み方針		
・平成28年度より交付金事業ではなく、村の単独費で実施するか検討中。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table><tr><td rowspan="2">総事業費</td><td rowspan="2">交付対象 事業費</td><td colspan="2">交付金</td><td rowspan="2">交付対象 外経費</td></tr><tr><td>充当額</td><td>市町村 負担金</td></tr><tr><td>1,545</td><td>1,545</td><td>1,235</td><td>310</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金		交付対象 外経費	充当額	市町村 負担金	1,545	1,545	1,235	310	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金		交付対象 外経費												
		充当額	市町村 負担金													
1,545	1,545	1,235	310	0												
伊是名村 交付対象 事業費 1,545千円 委託料 1545千円 丸正印刷株式会社 1,545千円 お土産袋 799千円 観光カレンダー 745千円																
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明												
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先の選定については、過去の実績等を堪案して選定しており、妥当であった。 ○予算規模は業者見積もりにより設定しており、適正な規模であった。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減	
						Ⅲ-9	
事業内容	離島の定住条件の向上を図るため、沖縄本島の今帰仁村運天港を結ぶフェリーの自動車航送運賃を軽減する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,209	9,830	11,757	11,757	
		(b) 予算現額	7,209	11,130	11,923	12,028	
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,300	166	271	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		7,209	11,130	11,923	12,028	
	B. 執行済額		6,934	11,006	11,923	12,028	
	うち交付金充当額		5,547	8,804	9,538	9,622	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		96.2%	98.9%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		年間利用台数を考慮して負担軽減を図っているが、年度末の移動増により利用台数が予定より増えたため271千円増額している。活動目標の達成状況どおり実施し予算執行も適正と考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	伊是名発自動車航送往復運賃の負担軽減	目 標	(3,500台)	(4,000台)	(負担軽減)	(負担軽減)	
		実 績	4,894台	5,395台	負担軽減	負担軽減	
達成状況説明	村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶において、車輛航送運賃の助成を行ったことで、定期的に本島との往来が出来るようになり、教育・医療・福祉の充実と定住条件の向上・村民の負担軽減に寄与した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	自動車航送運賃助成による定住条件確保: 5,000台	目 標	()	(4,000台)	(5,000台)	(5,000台)	()
		実 績		5,395台	5,705台	5,755台	
	進捗状況説明	・目標台数は5,000台としたが、コスト負担軽減事業の周知・広報及び利用促進を図ることで、5,755台と目標を上回ることができた。 ・村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶の車輛航送運賃の助成を行うことで村民の負担軽減に寄与した。 ・今後も本事業を活用し、年間利用台数6,000台を平成33年までに達成できるよう推進するとともに、本村のさらなる定住条件の向上を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・土日・祝祭日や大型連休になると船舶の利用者が増え、旅客・自動車航送券の発券所が混雑し船の定時運航に支障をきたす場合がある。 ・平成24年度から事業を実施しているが、利用申請に必要な離島住民割引運賃カードの有効期限切れ(3年)により窓口業務が混雑した。	・負担軽減申請書を乗船券購入時に提出しなければならないが、発券所前にて申請書に記入する住民が多数おり、時間のロスに繋がることから事前に申請書に記入のうえ乗船券を購入するよう指導する。 ・発券所の混雑解消を目的としたQRコードシステム導入について検討する。 ・離島住民割引カードの更新を防災行政無線及び村広報誌等で周知することで広報活動の強化に努める。
今後の取り組み方針		
離島住民割引カードQRコードシステムを導入することにより、負担軽減申請書の提出を省略することが可能となり、発券業務の混雑解消に繋がることから、その導入について検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50,240</td><td>12,028</td><td>9,622</td><td>2,406</td><td>38,212</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	50,240	12,028	9,622	2,406	38,212
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
50,240	12,028	9,622	2,406	38,212										
伊是名村 【一般会計】 交付対象事業費 12,027,950 円 伊是名村船舶運航事業 特別会計へ繰出 繰出 伊是名村 【船舶運航事業特別会計】 1台あたり助成額 2,090円 50,240千円-38,212千円= 12,028千円 差額(助成)分を一般会計へ請求 請求 【住民キップ購入】 5,755台 総事業費(車両航送費) 50,240千円 受益者負担分(交付対象外経費) 38,212千円														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○船舶運航事業特別会計にて、自動車航送券の発券及び集計を取り扱っていることから支払先は妥当と考えられる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○住民が航送券を購入した実績で事業を行っていることから適正な予算規模と考えられる。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成率は3割足らずで、7割強を受益者が負担していることから、負担関係は妥当であると考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②		妊婦健診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	住民福祉課		事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	14回の妊婦健康診査時の渡航費等及び宿泊料や36週以降の滞在時の宿泊料の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	469	1,797	1,433	1,513	
		(b) 予算現額	469	1,097	1,433	1,513	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 700	0	0	
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		469	1,097	1,433	1,513	
	B. 執行済額		369	840	840	1,047	
	うち交付金充当額		295	672	672	837	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (％) (B/A)		78.7%	76.6%	58.6%	69.2%	
予算の状況の説明		妊婦健診に要する渡航費・交通費及び宿泊費の助成額について、対象人数と健診回数をもとに算出した。しかしながら466千円の不用額が生じることとなったが、これは健診受診目標値に対して実績が伸びなかったことが要因である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	妊婦健診に要する渡航費・交通費及び宿泊費の支援	目 標	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	産婦人科医がいらないため本島の医療機関を利用しており、日帰りとなると移動にかかる妊婦への肉体的・精神的負担が懸念される。妊婦の経済的な軽減を図るという点においては初期の目的を達成できている。今後多くの妊婦が活用出来るよう広報活動を充実させたい。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・渡航費・交通費支援	目 標	(134)	(134)	(168)	(168)	()
		実 績		115	118	102	
	・滞在費支援	目 標				(2人)	
		実 績				3人	
	進捗状況説明	対象妊婦が、予定していた回数の健診を受けられなかったことで目標を下回っている。 母子手帳交付時に事業の説明を行っているので事業周知はできている。今後は転入者への広報活動を充実させていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・島から本島への交通手段は80%程が自家用自動車を利用しているので、航走運賃について助成できないかという要望がある。また、知人や親族がいない臨月の妊婦は、滞在費用を助成しているが、夫の付添に係る費用についても助成できないかという要望がある。	・妊婦のニーズに応えるために車航走運賃の助成をし、妊婦の利便性の向上を目的とした支援について検討していく。また、夫の付添についても検討する。 ・知人宅や親族の家に宿泊する場合についても定額の助成をし更なる経済負担の軽減を図りたい。
今後の取り組み方針		
妊婦の健康保持増進を図る目的で、健診結果に基づき妊婦の健康指導を実施しており、産婦人科のない本村にとっては、本島までの妊婦健診にかかる経済的負担、精神的負担の軽減が図られていることから、今後も引き続き事業を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,099</td><td>1,047</td><td>837</td><td>210</td><td>52</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,099	1,047	837	210	52
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,099	1,047	837	210	52										
伊是名村 1,047千円 補助金 1,047千円 妊婦 1,047千円 (船賃、車賃、宿泊費)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○母子健康手帳が交付され、村内に住所を有している妊婦に対して補助しており、妥当である。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○健診回数が当初見込みを下回った為、466千円の不用額が生じた。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成については、船賃・交通費・宿泊費のみであり、それ以外は対象者が負担しており、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○医療機関の受診証明書及び船賃の領収書・宿泊先の領収書の添付書類を確認し適正に支出している。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	人工透析医療受給者助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな支障となっている。村内の人工透析医療受給者が医療受診のための通院等に要する本島移動費及び宿泊費の支援を行うことで、定住条件の改善を図っていく。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	671	3,157	2,719	2,360	
		(b) 予算現額	671	1,857	1,619	998	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,300	▲ 1,100	▲ 1,362	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	671	1,857	1,619	998	
	B. 執行済額		377	1,548	1,442	845	
	うち交付金充当額		301	1,237	1,153	675	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		56.2%	83.4%	89.1%	84.7%	
予算の状況の説明		当初は4人の受療者がいたため、その分を予算計上していたが、死亡、転出等により減となったことに伴う、1,362千円の減額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	人工透析に係る交通費・宿泊費の支援。透析治療開始対象者の把握と手続等を円滑に実施する	目 標	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	事業実施によって受療者の経済的・精神的不安が解消され、治療に専念することができた。 平成27年度人工透析医療受療者:5名(2名本島で治療中。本村より受療者3名。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	人工透析に係る交通費・宿泊費の支援件数:2人 事業の実施によって受療者の経済的・精神的不安の解消を行い、住み慣れた地域で生活することができ、治療に専念することができる	目 標	()	(3)	(4)	(2)	()
		実 績		3	3	3	
	進捗状況説明	人工透析受療者に本事業の説明を行い助成を実施したことにより、3名の受療者が本事業を活用し、船賃・交通費・宿泊費の経済的不安の解消が図られている。当初対象者を2名で見込んでいたが、年度末に1名追加となったため、3名の実績となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	現在治療中の対象者は高齢者が多く、徐々に状態が悪化し、日常生活の支援も必要となり、福祉・医療サービスへとつながることが必要なケースもあった。	相談窓口を明確にし、定期的な保健指導の機会を設けていく。
今後の取り組み方針		
さらなる事業促進により、人工透析医療患者の負担を軽減することで、治療に専念することが出来、また移動により心身の疲労も軽減することが出来る。今後も公平安心な補助を行うために、人工透析医療が必要になった場合の確実な情報提供、補助対象審査をスムーズに行えるよう、手続き方法について分かりやすく説明し、保健指導等も行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>845</td><td>845</td><td>675</td><td>170</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 845千円 補助金 845千円 人工透析医療受給者 845円千 ①船賃②車賃 ③宿泊費に係る経費の補助					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	845	845	675	170	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
845	845	675	170	0										
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内に住所を有している透析患者に対して補助しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は適切だったと考える											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○助成に関しては船賃、交通費、宿泊費のみであり、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	伊是名らしい古民家修復・復元事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-7	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成25年度～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備 Ⅲ-9	
事業内容	本村における貴重な資源である古民家の修復や、古民家が消失し空き屋敷となっている敷地に古民家(赤瓦屋根・サンゴ石垣・屋敷林)を復元し、Uターン・Iターン者向け定住住宅として定住促進を図るとともに観光地としてのイメージアップを図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	68,466	0	92,471	0	46,000
		(b) 予算現額	82,502	8,871	92,471	0	44,928
		(c) 増減額 (b-a)	14,036	8,871	0	0	▲ 1,072
		(d) 繰越額	—	54,655	—	67,751	—
		A. 計 (b+d)	82,502	63,526	92,471	67,751	44,928
	B. 執行済額		8,164	63,526	24,720	55,468	44,928
	うち交付金充当額		6,531	50,821	19,775	44,374	35,942
	次年度繰越額		54,655	0	67,751	0	0
	執行率 (%) (B/A)		9.9%	100.0%	26.7%	81.9%	100.0%
予算の状況の説明		当初の計画どおり実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	古民家改修(1棟)	目 標	(修復工事2棟 復元工事1棟)	(修復工事1棟 復元工事1棟)	(修復工事1棟)	()	
		実 績	修復工事1棟	復元工事1棟	修復工事1棟		
達成状況説明	前年度までに用地取得、実施設計、解体工事を実施したことで、建築工事を予定通り実施し、完了することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)
	古民家修復をおこない、Uターン・Iターン者向け定住住宅1世帯を提供	目 標	() (3世帯)	(2世帯)	(1世帯)	()	
		実 績		0世帯	0世帯	1世帯	
	進捗状況説明	平成27年3月に改修住宅、平成27年6月に復元住宅がそれぞれ1棟ずつ完成し、2世帯の入居者が決定した。復元住宅には平成27年12月、東京からの家族が入居。改修住宅には、岡山県からの家族が入居決定しているものの、諸事情により平成28年8月頃の入居予定。平成27年度事業で完成した古民家修復物件については、平成28年度に入居募集・入居者を決定する。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本事業は、本村の貴重な資源である古民家を修復・復元し、Uターン・Iターン者向け定住促進住宅並びに地域の観光資源として活用するために平成25年度より取り組んできた。しかしながら、修復工事の場合、工期が長期化し、費用も嵩むことから今後の修復工事について、方針を検討する。 取組み内容については、マスコミ等々で取り上げられ、注目されることとなったが、いざ移住となると仕事がネックとなり移住を断念する方も多い。このため、移住定住について総合的に案内できる体制づくりが課題となっている。ただ、地域の資源である古民家についてこれだけ村外から注目されたことで、古民家が地域にとって大切な資源であると改めて認識させることとなり、住民の意識も少しずつ変化がみられるようになった。 建築材等を見直し、工事費の圧縮について検討する必要がある。	修復については、平成25年度事業で2棟の実施設計を実施し、工事も平成27年度で完了した。修復工事については、今後実施せず、古民家復元を中心に実施することで、年1棟ペースで確実に整備できると考える。 同時に、移住定住に向けた総合的な窓口の設置に向け、関係機関と連携することで、移住者受け入れ体制の構築にもつながるのではないかと考える。本事業の実施にあたっては、できるだけ地元の人材を活用しながら、地元の職人を育成できるよう、検討する。そのことで継続的に事業を推進することが可能となる。
今後の取り組み方針		
これまでに古民家修復2棟、古民家復元1棟を整備し、2棟への入居者(修復1棟・復元1棟)が決定し、残る古民家修復住宅への入居者を決定する。平成29年度事業実施に向け、古民家復元建築費用の圧縮・地元人材の活用・移住定住総合窓口設置、などについて取り組み、ソフト・ハード両面から移住政策を進めていきたい。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,928	44,928	35,942	8,986	0

伊是名村
44,928千円

委託料
1,814千円

美音Space Design
(株)
1,814千円

伊是名らしい古民家【修復】工事
監理業務委託

工事請負費
43,114千円

株式会社
喜神サービス
43,114千円

旧山川商店【修復】建築工事

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○監理業務については、見積もりを徴収し精査の上随意契約、建築工事は指名競争入札により実施しており、妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○前年度までに設計等を完了しており、予算規模のとおり適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業完了後の検査を実施し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑤	火葬場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成27年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	島内に一カ所しかない火葬場であるが、昭和58年度に建設されてから30年が経過し、火葬炉の老朽化が著しいため、既存施設を利用しながら火葬炉棟の機能強化を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,860					
		(b)予算現額	4,644					
		(c)増減額(b-a)	▲ 216					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	4,644					
	B. 執行済額		4,644					
	うち交付金充当額		3,715					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		100%					
予算の状況の説明		入札残のため216千円減額した。 当初計画していた事業内容はすべて実施しているので適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	火葬炉等設計業務	目 標	(増改修工事設計)	()	()	()		
		実 績	増改修工事設計の実施					
達成状況説明	火葬場増改修工事設計業務を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (28年度)	
	火葬炉の老朽化に伴う機能強化を図り、安心して暮らせる島を提供することで、定住条件に大きく寄与する	目 標	()	(定住条件に大きく寄与)	()	()	()	
		実 績		設計業務の完了に留まった				
	進捗状況説明	火葬場増改修工事設計業務の完了はしたものの、施設の機能強化を実施するまでには至っていないことから、成果目標については達成することができなかった。28年度において着工、機能強化に取り組んでいくことで、成果目標の達成に向けて引き続き事業を実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村の火葬場は整備後30年が経過し、火葬炉の老朽化が著しく使用時に支障をきたしていた。しかし、建屋については老朽化は少なく、改修による延命化を図ることができると判断できたため、新たな火葬炉の増築と既存建屋の改修を行うため、火葬場増改修工事設計を行った。	現在、非常用発電設備等はなく、今回の設計にも計画をしていないため、今後は災害時の対応も考え施設の更なる機能強化を図る余地がある。
今後の取り組み方針		
平成28年度には火葬場増改修工事を実施予定であり、適切な工事執行に努める。また、火葬場の整備後は住民負担が軽減が図られるので、今後も定住条件整備のための施策を推進し、定住条件の向上に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,644</td><td>4,644</td><td>3,715</td><td>929</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,644	4,644	3,715	929	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,644	4,644	3,715	929	0										
伊是名村 4,644千円 委託料 4,644千円 リアル設計 4,644千円 火葬場増改修工事設計														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、建築設計業務等積算基準及びH27設計業務委託等技術者単価に基づき積算したことから適正であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											

市町村名	伊是名村							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑥	地域活動拠点活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27年度～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と供創による農山漁村の活性化 Ⅲ-9		
事業内容	地域との連携の下、地域住民に拠点地域活動・地域行事(芸能祭)等伝統文化・芸能の場や食文化を利用した都市及び観光客との交流と体験を提供する地域活動拠点施設の整備に向け、施設整備の基本的な考え方、施設建設の方針、運営体制などの基本計画を定める。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,500					
		(b) 予算現額	4,536					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 964					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	4,536					
	B. 執行済額		4,536					
	うち交付金充当額		3,628					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (％) (B/A)		100%					
予算の状況の説明		視察の未実施による旅費500千円と464千円の入札残により、964千円を減額したが、事業内容は達成しているので適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	地域活動拠点施設基本計画策定業務委託	目 標	(委託実施)	()	()	()		
		実 績	委託実施					
達成状況説明	地域活動拠点施設基本計画策定業務を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)	
	地域活動拠点施設整備に向け、施設整備の基本的な考え方、施設建設の方針、運営体制などの基本計画の策定	目 標	()	(計画策定)	()	()	()	
		実 績		計画策定				
	進捗状況説明	地域活動拠点施設基本計画策定業務の完了。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・地域行事(芸能祭)等伝統文化、特色ある食文化を継承していく拠点活動施設整備を目的とする事を踏まえ、地域の実態活動内容に即した整備計画と捉える事が、最大の効果発現と思慮される為、地域意向を汲み取る事が重要課題。	・これまでに、事業説明会及び意見交換会を2回聴取し、その上で地域実情を考慮した計画策定とした為、最終意見交換会において追加要求が無かった事は、推進上の課題を達成出来たと検証する。
今後の取り組み方針		
基本的方針が策定されたが、事業目的である伝統及び食文化を継承していく活動施設となる様、更なる活動実態等を調査し反映出来るよう取組を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,536</td><td>4,536</td><td>3,628</td><td>908</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,536	4,536	3,628	908	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,536	4,536	3,628	908	0										
伊是名村 4,536千円 委託料 4,536千円 (株)丸島建設コンサルタント 4,536千円 基本計画策定業務														
資金の流 使途の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、建築設計業務等積算基準及びH27設計業務委託等技術者単価に基づき積算したことから適正であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	人材育成事業(日高小との交流事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	沖縄と北海道という異なる生活圏で暮らす子ども達が、それぞれの地域を訪れ、その地域の自然や歴史、生活に触れ、体験学習・交流学习を通して友情を育むことで、広い視野と協調の精神を養う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,960	1,499	2,000	1,606	
		(b) 予算現額	1,960	1,499	2,000	1,606	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		1,960	1,499	2,000	1,606	
	B. 執行済額		1,903	1,499	1,978	1,533	
	うち交付金充当額		1,522	1,199	1,582	1,226	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		97.1%	100.0%	98.9%	95.5%	
予算の状況の説明		不用額については、生徒の減少及び、見積り合わせの結果生じた残額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	日高小学校との交流・体験学習の実施		目 標 (交 流・体 験 実 施)	(交 流・体 験 実 施)	(交 流・体 験 実 施)	()	
			実 績 実 施	実 施	実 施		
達成状況説明	沖縄とは異なる北海道の自然や生活に触れることで、子供たちの視野を広げ、自然体験や文化交流をとおして互いの地域を理解し、それぞれの地域の自然や伝統文化の大切さを実感した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年 度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年 度)
	日高小学校との交流会参加人数		目 標 ()	(22)	(児童19名 引率 5名)	(児童12名 引率 5名)	()
			実 績	22	児童16名 引率 5名	児童11名 引率 5名	
	進捗状況説明	・日高町及び北海道の気候や文化・自然について事前学習を実施した。 ・事前に手紙での児童間の自己紹介の実施。 ・村の歴史や自然・文化等について事前に調べ、そのことを交流会等で発表した。 ・沖縄の空手や三線・エイサーなどを生徒または地域の方々に披露して沖縄の文化を伝えた。 ・年度当初より児童数の減少(転出等)により目標を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・事業を効果的かつ円滑に行う上で、両校の連携体制が重要になる。北海道での日程及び交流内容等を双方で綿密に練り上げ事業に望むことが必要である。 ・また、環境に違いがあるため、事前に危険予知活動など、安全対策に留意する必要がある。	・学校側と連携を図り、定期的な会議を開催し、事業の進捗状況及び内容等について確認する。 ・派遣者後にアンケート調査を実施し、アンケート結果から今後の活動内容の向上を図る。 ・インターネット等を活用して児童同士が事前に交流を図る。
今後の取り組み方針		
・本村には幼小中それぞれで1校が設置されており、子ども達は幼少期から同じクラスで同じクラスメイトと中学校を卒業するまで学ぶことになる。そのことで、なれ合いの気持ちが強くなる傾向にあるといわれる。また、離島という地域性から容易に他校との交流が行えないことから、永年継続してきた日高小との交流事業は、北海道の自然や文化、北国の生活を体験できるということで、子ども達の視野を広げ、将来の進路選択にも役立つものと考えられる。今後とも事業を継続し、島の将来を担う人材育成に寄与する。 ・事業は、日高小学校6年生と伊是名小学校6年生を対象に、互いの地域を訪れる相互交流事業として実施する。日高小学校は11月頃、伊是名小学校は2月頃日高小学校を訪れ、ウィンタースポーツ体験や学校訪問を行い、その中で伝統芸能等を相互に紹介し、それぞれの地域の自然や文化について学ぶ。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,533</td><td>1,533</td><td>1,226</td><td>307</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	1,533	1,533	1,226	307	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
1,533	1,533	1,226	307	0										
伊是名村 1, 533千円 → 委託料 1, 533千円 → (株)ジャンボツ アーズ 1, 533千円 平成27年度(第22次)伊是名村少年 の翼派遣事業に係る業務 児童数:11人 引率者数:5人														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は3者から見積書を取り低価格の業者を選定したので妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・使途については事業目的に即し、真に必要なものなのか等、契約一件書類等において確認した。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○児童と引率者の宿泊費及び交通費適正であるとする。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○予め受益者負担として対象外経費項目を設けているので、受益者との負担関係については妥当である。											

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	児童生徒島外諸教育活動支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-7	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	離島である本村から、児童生徒の島外での諸教育活動への派遣費を支援し、本村から本島への移動をスムーズに行えるよう実施する。						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,236	3,134	4,230	4,230	
		(b) 予算現額	1,236	2,834	4,230	1,930	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 300	0	▲ 2,300	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		1,236	2,834	4,230	1,930	
	B. 執行済額		1,155	1,917	2,339	1,789	
	うち交付金充当額		923	1,533	1,871	1,431	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		93.4%	67.6%	55.3%	92.7%	
予算の状況の説明		・当初計画で参加を予定していた大会への不参加及びフェリー欠航等により不参加になったことで、当初予定していた派遣回数より大幅に減少したため不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	島外教育活動への派遣	目 標	(交通費宿泊費の補助)	(65人)	(派遣)	(島外諸教育活動への派遣)	
		実 績	交通費宿泊費の補助	65人 (延べ233人)	派遣	島外諸教育活動への派遣(31回実施)	
達成状況説明	・児童生徒が島外教育活動参加のため、離島ということから発生する経費(船賃、宿泊費)を補助することで移動がスムーズに行えた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)
	島外教育活動への派遣児童生徒数	目 標	()	(65人)	(86人)	(90人)	()
		実 績		65人 (延べ233人)	86人 (延べ473人)	78人 (延べ384人)	
	進捗状況説明	・前年度と比較し天候不良等による諸教育活動参加は減少しているものの、児童生徒に多くの学習・体験・交流する機会が得られ、スポーツ技術向上、コミュニケーション能力育成など健全な育成、子育て支援につながっている。 ・天候不良による定期便欠航のための派遣活動数の減少及び当初予定の対象活動参加児童生徒数の減少により目標値を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・保護者の負担軽減が図られているが、宿泊費の負担が大きいことから全額補助の要望がある。	・宿泊費の補助増額については県から示された派遣補助の考え方及び他市町村の派遣事業を参考にしながら村の補助金要綱の改正を検討していく。
今後の取り組み方針		
・宿泊費の補助増額については、補助額の増大が見込まれることから安易に改正することなく内容を精査し、引き続き学校・団体等と次年度に向けて協議していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,789</td><td>1,789</td><td>1,431</td><td>358</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,789	1,789	1,431	358	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,789	1,789	1,431	358	0										
伊是名村 交付対象事業費 1,789千円 補助金 1,789千円 学校・団体 (児童生徒・指導者) 1,789千円 島外教育活動に係る船賃及び宿泊費 (宿泊費については上限あり)														
資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学校及び団体をととして児童・生徒に間接的に補助する形態であり、支出先は妥当であると考える。 ○予算規模については、当初計画どおり実施できなかったため、児童生徒数や参加大会等を検討する必要がある。 ○離島ならではの船賃や宿泊費(上限あり)の経済的負担に対し助成するものであり、受益者との負担関係は妥当であると考える。 ○使途については事業目的達成の観点から支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部署名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本村の未来を担う児童の人材の育成を図る観点から、小学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童生徒への学習支援を実施する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	256	1,693	1,760	6,312	
		(b) 予算現額	256	1,693	1,760	4,464	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,848	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	256	1,693	1,760	4,464	
	B. 執行済額		71	1,397	1,710	4,278	
	うち交付金充当額		56	1,117	1,368	3,422	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		27.7%	82.5%	97.2%	95.8%	
予算の状況の説明		・今年度より中学校にも1名配置し、2名体制となっている。不用額については地域内の雇用者を採用できたことによるものであり、ほぼ適正に予算が執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習支援員の配置	目 標	(1人)	(1人)	(1人)	(2人)	
		実 績	1人	1人	1人	2人	
達成状況説明	・学習支援員を2人雇用し、小学校・中学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童・生徒の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	充実した学習支援体制の確保	目 標	()	()	()	(確保)	()
		実 績				確保できた	
	【参考指標】 支援児童生徒の数	目 標	()	(82人)	(82人)	(120人)	()
		実 績		85人	84人	120人	
	進捗状況説明	・学習支援員を2人雇用し、教育活動の支援及び学習に遅れのある児童・生徒への充実した学習支援体制が確保されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学校・中学校における支援員の配置により、きめ細かな学習支援活動を行ったため一定の効果が見られた。	・支援員を確保する事が難しい状況であり、大学等と連携しながら人材確保に努める必要がある。 ・島外からも広く人材を確保するため、支援員の待遇の改善を図り、安心して勤務できる環境を作る。
今後の取り組み方針		
・支援員の確保に向けて、大学等に早期から募集案内を送付するとともに、村のホームページ等の活用を行う。 ・学習内容が十分理解できない児童及び行動に問題のある児童等への支援で、学級の落ち着きが見られ学習環境が改善しつつある。引き続き支援員を配置し、さらなる環境改善に努める。 ・本村は離島であり、民営のアパートや民家の空き家も少ない状況のうえ、賃金形態から見ると家賃も割高である。そのため、島外からの支援員が安心して勤務できるよう家賃の一部負担や賃金の改善を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,278</td><td>4,278</td><td>3,422</td><td>856</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,278	4,278	3,422	856	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,278	4,278	3,422	856	0										
伊是名村 交付対象事業費 4,278千円 報酬 3,619千円 学習支援員 3,619千円 〔 学習支援員報酬 2名 〕 共済費 559千円 社会保険事務所 559千円 〔 学習支援員社会保険料 2名 〕 負担金 100千円 学習支援員 100千円 〔 学習支援員家賃補助 1名 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は支援員の人件費であり担当課における面接により選考し採用しており妥当と考える。 ○予算規模についてもほぼ見込みどおり執行し、適正である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要な報酬・社会保険料・家賃補助の支出であり、書類等により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	幼稚園預かり保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	離島である本村では、学童保育所がないため保護者が安心して仕事ができる環境整備として教育課程に係る教育時間終了後に幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を配置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	238	849	901	1,175	
		(b) 予算現額	238	849	901	1,012	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 163	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		238	849	901	1,012	
	B. 執行済額		177	779	693	1,012	
	うち交付金充当額		141	622	554	809	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		74.4%	91.8%	76.9%	100.0%	
予算の状況の説明		・不用額については、長期休業中における家庭保育(兄弟等が夏休のため)実施による残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	保育士の雇用	目 標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実 績	1人	1人	1人	1人	
達成状況説明	・幼稚園教育の基本を踏まえ、地域の実情により幼稚園預かり保育の強化として保育士を1名雇用した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	預かり保育を利用する幼児数	目 標	()	(7人)	(15人)	(16人)	()
		実 績		7人	7人	15人	
	進捗状況説明	・教育課程に係る教育時間終了後において園児総数16名の内、15名の幼児の預かり保育を行い、保護者が安心して仕事ができる環境整備ができた。 ・全園児を目標にしていたが、家庭保育の希望者がいたことにより目標を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・夫婦共働きの保護者が多く、教育課程に係る教育時間以後、幼児の面倒を見ることが出来ないうえに、当村には学童保育等がない。 ・村内在住で保育士免許を有している者が限られており、人材を確保するのに苦慮する。	・本村の実情より、預かり保育の実施が必要であると考え。そしてその為には保育士の雇用も必要であるが、保育経験者等の採用も検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・幼稚園教育の基本を踏まえ、地域の実情により幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を雇用し、教育課程に係る教育時間終了後において、保護者が安心して仕事ができる環境整備を本事業でこれまで行ってきた。しかし、「子供子育て支援新制度」の設立により平成28年度からは新制度に移行することとなった為、これまでの取組を活かしながら引き続き継続していくこととする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,023</td><td>1,012</td><td>809</td><td>203</td><td>11</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,023	1,012	809	203	11
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,023	1,012	809	203	11										
伊是名村 交付対象事業費 1,012千円 資金 1,012千円 → 預かり保育職員 1,012千円 (預かり保育職員賃金 1名)														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 使途の 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内在住の保育士免許を有している者を選定し採用しており妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても必要最小限の予算であり妥当であると考え。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業目的達成の観点から必要な賃金のみ支出であり、書類等により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	学校外学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	高校受験対策の一環として、生徒の学校外での学習を支援することにより、学校の授業でカバーできないきめ細かい学習を支援するため、村営の学習塾を開設する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,323	7,628	7,342		
		(b) 予算現額	6,863	7,628	6,072		
		(c) 増減額 (b-a)	540	0	▲ 1,270		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	6,863	7,628	6,072		
	B. 執行済額		5,585	5,856	5,648		
	うち交付金充当額		4,467	4,684	4,518		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		81.4%	76.8%	93.0%		
予算の状況の説明		・不用額については、必要事務経費(消耗品・使用料等)の数量の減や地域内の雇用者を採用できたことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	学習塾の設置及び講師の雇用	目 標	(3人)	(3人)	(3人)	()	
		実 績	3人	3人	3人		
達成状況説明	・学習塾を設置し、講師を3名確保できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	学習塾利用生徒数	目 標	()	(65人)	(62人)	(55人)	()
		実 績		65人	63人	55人	
	進捗状況説明	講師を3名を確保し、継続して学習塾を設置できた。 主に中学3年生を対象とし、1・2年生も含めた中学生全員を対象に実施。また、3年生は生徒個々の学力に応じたグループ分けを行い、よりきめ細かい支援を行うことができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・中学校は専門教科であるため、一人ですべての教科に対応することは困難であるため、引き続き複数の講師の確保が必要である。 ・毎年、講師の確保が難しく又、入れ替わりがあるため主となる講師の継続採用が重要である。	・課題として、学力に差が見られることから基礎クラス・一般クラスなど班編制を随時行い、よりきめ細かな指導を図る。 ・講師を確保する事が難しい状況であり、家庭教師等の体験のある大学生を継続して受け入れるため大学等と連携しながら人材確保に努める必要がある。主となる講師については、関係機関との随時情報収集に努める。
今後の取り組み方針		
・高校受験に向け、中学3年生については個々の学力に応じたグループ分けを行い、よりきめ細やかな支援を行っていく。月曜日～金曜日までの週5日間を計画している。 ・高校受験対策として実施してきた成果が、近年の高校合格率で顕著に現れているため、引き続き学習塾を継続していく。 ・講師の確保の向けて、直営で運営してきたが講師の人材の確保が、困難であるため、事業に精通した民間事業者への外部委託を検討し勤めていく。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		5,648	5,648	4,518	1,130	0

伊是名村
5,648千円

報酬
5,210千円

負担金補助
240千円

事務費
197千円

講師報酬
3名分
5,210千円

講師家賃負担金
2名分
240千円

消耗品費、使用料等

講師3名雇用

講師の家賃負担

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は学習塾講師人件費が主であり、担当課における面接により選考し採用しているの妥当である。 ○予算規模については、島内における講師を採用したことによる家賃負担の減と事務費の削減に取り組んだことによる不用額以外はほぼ見込みどおり執行できた。 ○事業目的達成の観点から必要な支出であり、主に講師の報酬である。事務費は塾に必要な経費の支出であり、書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑥	グッジョブ連携推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア、ウ		
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成27年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	小中学校において、児童生徒に自己理解・自己実現を図る意欲を向上させ、目的意識の高揚や就業意識の向上を高める必要がある。そのためには、学校と体験学習受入事業所、経済団体といった関係機関との連携・協力体制を構築して活動を効果的に推進していく。また、家庭・地域・行政が互いに連携し地域資源を活用し、学校支援活動の強化につなげることを目的に、小学校ではジョブシャドウイング、中学校では職場体験などキャリア教育を実施する。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,569					
		(b) 予算現額	1,120					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 449					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	1,120					
	B. 執行済額		769					
	うち交付金充当額		614					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		68.7%					
予算の状況の説明		・引率旅費、消耗品等の削減とマナー講習会実施回数の減による不用額となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	ジョブシャドウイング・職場体験学習の実施	目 標	(2校)	()	()	()		
		実 績	2校					
	キャリア教育講演会の開催	目 標	(1回)	()	()	()		
		実 績	0回					
	達成状況説明	受け入れ事業所の協力により小学校が10月、中学校が9月に職場体験・マナー講習を実施することができた。 キャリア教育講演会については、他事業(単費)で2回開催したことで実施したこととみなし、本事業での取り組みとして実施しなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	キャリア教育の実施人数	目 標	()	(小5:11人 中2:16人)	()	()	()	
		実 績		小5:11人 中2:16人				
	関係機関との連携協力体制の構築	目 標	()	(構築)	()	()	()	
		実 績		構築				
	進捗状況説明	・学校、教育委員会、村、村内外の受け入れ事業所、経済団体など関係団体の連携体制により職場体験・マナー講習を実施し、対象全児童、生徒が参加することができた。 ・職場体験で学んできたことを学習発表会等でIT機器を活用しながら発表することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・職場体験を終えてから児童生徒の、働くこと、仕事をするに關しての意識の変化があり、協調性の精神の高揚が図られている。 ・離島である特性から教育的刺激や就業意欲を高める刺激が少ない環境下で、将来の職業や目標をしっかりと見極める目的意識を高める必要がある。児童生徒が将来の夢・目標をしっかりと持って、自立的な進路選択、将来設計ができるような取り組みを推進する。	・日頃からの挨拶や返事などの徹底指導、事前学習や事後指導を通しての充実を図っていきたい。
今後の取り組み方針		
・職場体験を通して職業の多種多様、直接体験することで、人間関係、勤労観や職業観を学び自己実現のため何が必要であるか、何をすればいいのかを児童生徒に意識づけていく。村内外の関係機関の連携協力体制を構築協力し、目的達成のため推進強化していく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>971</td><td>769</td><td>614</td><td>155</td><td>202</td></tr> </tbody> </table> 伊是名村 769千円 旅費等 629千円 旅費等 629千円 報償費 15千円 講師謝金 1名分 15千円 事務費 125千円 印刷製本費等 島外への児童生徒旅費等 マナー講習講師の謝金					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	971	769	614	155	202
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
971	769	614	155	202										
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○島外での職場体験に対しての船賃や宿泊費等の経費に対し助成するものであり、受益者との負担関係は妥当である と考える。 ○予算規模について児童生徒の対象人数からほぼ適正と 考えている。 ○使途については事業目的達成の観点から支出等に関す る書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊是名村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	伊是名村土づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立	
						Ⅲ-1-(6)	
事業内容	肉用繁殖牛の減少に伴う堆肥の原料不足を補うため、沖縄本島からの堆肥原料購入費用及び輸送費用を支援することにより、安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,197	16,793	16,807	35,120	
		(b) 予算現額	6,197	14,112	16,827	32,960	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,681	20	▲ 2,160	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	6,197	14,112	16,827	32,960	
	B. 執行済額		6,195	14,112	16,827	32,960	
	うち交付金充当額		4,956	11,289	13,461	26,368	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		2,160千円減額しているが、見積もり徴収後、精査した結果、輸送費用の安価な業者を選定したためであり、事業内容については計画通り執行されており、適正であると認められる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	農家補助用堆肥の確保	目 標	(1, 000t)	(1, 000t)	(確保)	(確保)	
		実 績	1, 000t	2, 000t	確保	確保	
達成状況説明	宜野座堆肥センターから堆肥原料(完熟品)を確保し、計画的に導入できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	堆肥導入数量	目 標	()	(1, 000t)	(2, 000t)	(2, 000t)	()
		実 績		2, 000t	1, 027t	2, 000t	
	進捗状況説明	台船の確保が困難な状況であり、村有フェリーでの輸送となっている。フェリーによる輸送については、一般客に対する悪臭及び汚損による苦情が懸念されるため完熟堆肥の導入を行っている。また、堆肥散布することで地力増強につながることを農家へ周知し、土づくりを促進することによる生産性の向上を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	台船確保が困難であり、フェリーでの輸送を余儀なくされている。フェリーでの輸送についてはフレキシブルコンテナバックを使用し、乗客への悪臭及び、汚損による苦情を考慮し、臭いの少ない完熟堆肥を導入する必要がある。	ほ場内に堆肥を導入する時期は、夏植え前の6月から8月、春植え前の2月から4月に集中する。そこで夏植えのほ場内まで堆肥が行き渡るように、運搬日数を短縮するために早めに台船の確保をし、年内までに導入するよう努める。また、堆肥はマニュアルスプレッドによる散布であるが、村内に2台しかなく、さらに老朽化しているため故障も絶えない状況である。全ほ場内に散布するには相当日数を要するため、新たな散布機械(マニュアルスプレッド等)を導入し、効率化を図ることを検討する。
今後の取り組み方針		
導入した堆肥施肥については、ほ場における適期が重なることから、今後散布機械の導入を検討し作業の効率化を図っていきたい。また、今年度は早急に堆肥原料を導入し、夏植え、春植えほ場及び株出しほ場を中心に3月までに散布できるよう努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
32,960	32,960	26,368	6,592	0

伊是名村
32,960千円

補助金
32,960千円

伊是名村さとうきび糖業振興会
32,960千円

〔 堆肥原料購入費に係る補助及び 〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積もり徴収後、精査のうえ選定しており、妥当と考える。 ○予算規模は必要量と供給量との比較により妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	分蜜糖製糖施設近代化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-7		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
						Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびは、台風等の自然災害等の影響を受けやすいため原料の安定確保が困難なことや、離島地域であり地理的に不利な状況であること等により製糖業の経営状況は厳しい状況である。そこで、製糖事業者が行う経営体質強化のための製造コストの低減、品質向上及び衛生管理の徹底等のため施設整備を支援し、安定操業を確保することにより、「さとうきび・糖業」の振興を図る。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	117,275					
		(b) 予算現額	142,279					
		(c) 増減額 (b-a)	25,004					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	142,279					
	B. 執行済額		142,279					
	うち交付金充当額		113,823					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		・積算基準及び資材単価等の変動により、当初予算額からの大幅な増額変更となったが、施設整備目標を達成しており適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	製糖工場外構工事設計業務	目 標	(委託設計1件)	()	()	()		
		実 績	委託設計1件					
	製糖工場外構工事	目 標	(外構工事3件)	()	()	()		
		実 績	外構工事3件					
	製糖工場外構工事現場技術業務	目 標	(現場管理業務1件)	()	()	()		
		実 績	現場管理業務1件					
	達成状況説明	製糖操業開始時期が決定していることにより、それに基づいた工事完成・引渡しが肝要となり、早急な業務及び工事発注が要求され、実施する事が出来た。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
食の安全確保のため侵入防止策の設置及び原料等搬入搬出ゲートの設置を行う。		目 標	()	(設置)	()	()	()	
		実 績		設置				
製糖工場進入路及び周辺雨水側溝を整備し、衛生環境を改善する。		目 標	()	(衛生環境改善)	()	()	()	
		実 績		衛生環境改善				
風による異物混入の低減を図るため、工場敷地内の舗装を行い、衛生的な環境を整備する。		目 標	()	(舗装)	()	()	()	
		実 績		舗装				
進捗状況説明		・当初計画のとおり施工ができ、フェンス設置も実施出来た為、風による異物混入の低減を図れ、砂塵粉塵の飛散防止が図られた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	生産過程により排出されるトラッシュ、バガス、工場設備燃料の運搬、砂塵、粉塵の工場内への飛散防止が図られた。 車両経路を整備することで食品の安全性が保たれた。	工場内への飛散防止が図られ、整備効果が発現していると検証する。 又、車両経路の整備を実施した事により、工場内へタイヤ付着物による異物混入等の無い運搬が可能となり、食品の安全性が保たれていると検証する。
今後の取り組み方針		
工場内への粉塵、砂塵等の飛散防止が図られた事により、整備効果が発現されていると検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>142,279</td><td>142,279</td><td>113,823</td><td>28,456</td><td>0</td></tr> </table> 伊是名村 142,279千円 委託設計料 2,322千円 (有)パブリックコンサルタンツ 2,322千円 外構工事設計業務 現場管理委託費 4,536千円 (有)パブリックコンサルタンツ 外構工事管理業務 工事請負費 135,421千円 (株)仲田開発 44,485千円 (有)丸伊電建 47,282千円 (資)諸見建設 34,301千円 (有)仲田開発 9,353千円 外構工事の請負 (1～4工区)分け					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	142,279	142,279	113,823	28,456	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
142,279	142,279	113,823	28,456	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託及び工事について、指名競争入札の為、適正と考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模は不用額も無く、適正と考える。										
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、事業目的に即した発注内容であり、適正と考える。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												